

## 震災復興のまち 神戸市新長田駅南地区にぎわい創出ワークショップ

### ■概要

平成 7 年（1995 年）の阪神・淡路大震災により甚大な被害を受けた神戸市長田区の新長田駅南地区では、被災権利者の早期生活再建と災害に強い安全・安心なまちづくり・都市機能の更新を目的として、震災復興第二種市街地再開発事業を都市計画決定し、事業を進めてきました。

そして、現時点で、計画されている再開発ビル 44 棟のうち 42 棟が完成しており、病院と共同住宅の複合ビル 1 棟が工事中で、残 1 棟についても令和 6 年（2024 年）度に完成予定となっており、これをもって事業完了となります。

今回は、新長田駅南地区のまちを歩き、震災復興をめざしたまちづくりに触れるとともに、商店街を中心にウォークアブルでまちににぎわいをもたらす方策を考える、学生対象のワークショップを、2 日間にわたり開催しました。

なお、2 回のワークショップとも、会場入口での消毒・検温やマスクの着用など、感染症拡大予防に十分配慮して開催しました。

### ■募集者数

主 催：（公社）日本都市計画学会関西支部

後 援：神戸市

日 時 1 日目：10 月 22 日（土曜日）午後 14 時～17 時

2 日目：11 月 26 日（土曜日）午後 14 時～17 時

場 所：兵庫県立神戸生活創造センター 講座研修室 A・B（両日とも）

（神戸市長田区二葉町 5-1-32 新長田合同庁舎 1 階）

参加者：19 名（大学（院）生）

なお、9 月 25 日（日曜日）14 時から開催された、神戸市主催の「新長田南活性化フォーラム ～明るい未来に向けて～」に、ワークショップ参加者はオンラインで参加できるようにしました。

### ■プログラム

【1 日目】

① 開会挨拶

② 趣旨説明、課題発表

・企画委員より、今回のワークショップの開催趣旨を説明し、提案を求める課題を発表しました。

課題：「新長田の活性化を図るため、地区の回遊性を高め、歩いてたのしい・ウォーカブルなまちの実現に寄与する方策について提案して下さい。なお、下記の2点は提案に必ず含むこと。」

- 1) 地上・地下・2階の3層歩行者ネットワークがより活用されるための仕掛け（ハード、ソフト問わない）
- 2) 仮想空き区画（区画の場所も提案する）へのリーシング提案

※今すぐに実施可能な提案でなくても良い

※対象エリアは大正筋商店街とするが、方策の実施場所は対象エリア以外でも良い

そのほか、

- ・提案発表用のパワーポイントを作成すること。枚数制限なし。ただし、発表は10分間
- ・提出メ切は、11月23日（祝）18時、企画委員会へメールで提出
- ・次回の発表・質疑応答は複数の人で行うこと

としました。

③ 講座「新長田駅南地区のこれまでとこれから」 神戸市都市局折原課長

・新長田駅南地区のまちづくりの歴史や課題について学ぶため、神戸市都市局地域整備推進課課長の折原さまからご講演をいただきました。



- ・新長田駅南地区は、神戸市市街地の西部、都心である三宮から約7km、電車で10分程度の場所にあります。
- ・震災前から、新長田駅南地区は「靴のまちながた」と言われることから、ケミカル産業を中心として、商店街等とともに発展してきたまちと言えます。
- ・平成7年（1995年）1月17日に発生した阪神・淡路大震災により新長田駅南地区も甚大な被害を受けました。
- ・震災からの復興を図るため、新長田駅南地区では市街地再開発事業を活用することとし、平成7年3月17日には都市計画決定を行いました。その際、①防災支援拠点の整備と安全・安心な街区の形成、②住商工の再配置による副都心復興、③道路、デッキ等の歩行者ネットワークの整備、④多様で良質な住宅の供給の4つを整備方針として

掲げました。

- ・新長田駅南地区の整備内容ですが、20 路線の道路、若松公園をはじめとする公園や広場のほか、地区計画で街区のコーナー部のまちかど広場や 2 階レベルでの歩行者デッキ、地上レベルでの歩道上空地などを位置づけ整備しています。
- ・また、施設建築物、再開発ビルについては、全体で 44 棟を計画、ビルの商業計画にあたっては、既存の商店街沿いに店舗を配置するとともに、ビル間をデッキや地下通路で接続しています。
- ・さらに、住宅の計画としては、約 2,800 戸の住宅供給を目標としました。
- ・これら事業の進捗状況ですが、事業計画等の手続きはすべて完了しており、再開発ビルについても、計画 44 棟のうち、42 棟が完成、残る 2 棟のうち病院と共同住宅の複合建築物が工事中で令和 5 年 3 月に完成予定、総合衛生学院等の教育施設が来年 2 月に着工、令和 6 年に完成予定となっています。
- ・また、当事業による生活再建については、約 55%の方がビルに入居しており、残り 45%の方は他の場所に移転しています。
- ・今回のワークショップのテーマでもあり、新長田の再開発計画の中でも重要な要素の一つと言えるのが、地下 1 階から 2 階までの 3 層ネットワークの整備です。
- ・地区北側の地下鉄新長田駅から南側の地下鉄駒ヶ林駅までの区間を、ビル内通路、地下通路、2 階デッキにより接続し、歩行者ネットワークを整備しています。
- ・計画にあたっては、震災前の商業床の面積を確保することを前提とし、国道北側と南側それぞれに集客を生む核テナントを配置し、通路沿いの店舗とあわせて、ビル内にも商店街的な空間を整備し、それぞれのビルを接続することにより回遊性を高め、にぎわいを生み出そうというコンセプトで整備しています。
- ・ただし、現時点でも十分なにぎわいが出ているとは言い難く、このネットワークをどのように活用していくのが課題になっています。みなさんからの自由で柔軟な提案を期待しています。
- ・最近の事例について少し紹介しますと、令和元年に、今回の会場であるこの建物、兵庫県と神戸市の合同庁舎が整備されました。
- ・令和 3 年には、多文化交流を促進する施設として、神戸国際コミュニティセンターがオープンし、今年 5 月には、ダイエーが撤退後、一時空き区画となっていた場所に、核テナントとしてロピア新長田店がオープンしています。
- ・さらに、今後は、現在建築中のビルと、総合衛生学院等の教育施設が整備されます。
- ・新長田駅南地区では、地域関連団体や地元商業者、地域の方々と共同で、さらなるにぎわい創出にむけて取り組んでいます。
- ・事例のひとつとして、「くにづかりボーンプロジェクト」があります。これは、国道より南側のエリアを対象として、「商売をしている人、働いている人、暮らしている人、地域みんながこの街の将来を考えよう」という目的で 2013 年にスタートしたプロジェクトです。

- ・プロジェクトを進める中で、株式会社くづかが設立され、現在、様々な取り組みが実施されています。まちの情報発信や地域の交流の場であるコミュニティハウス、いろいろな講座などを展開しているくづかカルチャーラボ、地下の空き区画を用途転用し整備した卓球場、くづかタックなどの施設を運営するとともに、多国籍文化を体感できるイベント、ローカル&ワールドフェスティバル、産地直送の野菜の販売や飲食ブース、子供の遊び場などくづかりボーンマルシェなどイベント開催にも取り組んでいます。
- ・次に KOBE 鉄人 PROJECT について紹介します。2008 年に鉄人 28 号と三國志をテーマにまちづくりに取り組む団体として設立され、2009 年に若松公園に鉄人モニュメントを整備し、以降、鉄人広場や KOBE 鉄人・三國志ギャラリーを活用し、イベント開催などにぎわいづくりに取り組んでいます。
- ・今後の施設整備についてお話しします。地下鉄の新長田駅が令和 6 年 3 月完成をめざしてリニューアル施工中です。また、令和 6 年度供用開始を目標に、駅前広場の再整備を検討中です。この駅前広場再整備では、新長田を起点にバス路線を再編し、駅前広場にバスターミナルを設置することを検討しています。
- ・また、若松公園の一部に西市民病院を移転し、地域医療の充実を図ることとしています。令和 10 年度頃の開院予定としており、来院者と医療従事者約 2,000 人が来訪することになります。また、この病院の開院に合わせ、若松公園をリニューアルする予定としています。
- ・今後の施設整備による効果をつなげ、相乗効果を生み出し、新長田南のまち全体へ波及できるように取り組んでいくとともに、ビルなど整備されたストックを効果的に活用し、医療福祉施設の誘致や子育て世代をターゲットとする店舗など新たな店舗誘致を図り、まちとしての魅力アップにつながるよう、まちの可能性を十分活かせるよう取り組んでいきたいと考えています。
- ・周辺地域との連携も非常に重要。周辺エリアでは、密集、空き家・空き地など課題があり、空き家・空き地対策や活用については、神戸市として非常に力を入れており、様々な補助制度なども運用しています。
- ・また、周辺エリアには様々な魅力もある。事例を紹介すると、旧二葉小学校を地域のコミュニティ施設として整備したり、駒ヶ林南部では路地空間を保全するとともに、建築物の防火性を向上させることにより、昔ながらの下町風情を保全するまちづくりを進めています。
- ・さらに、長田漁港での直売や、飲食ブースでの出店なども行っており、再開発エリア、周辺エリア、それぞれの課題や魅力について、連携しながら一体的なまちづくりに取り組み、まちの活性化につなげていきたいと考えています。

④ まちあるき

・神戸市からの引率・解説を受けながら、新長田のまちを参加者全員で歩きました。



⑤ 班別ディスカッション

・次回の発表に向けて、内容のアウトラインを相談し、役割分担や作業スケジュールを相談しました。



なお、1 日目から 2 日目の間、インターネットのホワイトボード「ミロ」を用意し、事務連絡や質問・回答、各班の打ち合わせ等に使用しました。

## 【2 日目】

- ① 開会挨拶
- ② 各班の発表と質疑応答
  - ・開会前にくじ引きで決めた発表順で、各班 10 分間のプレゼンテーションを行い、その後会場からの質疑応答を行いました。
- ③ 採点・審査
  - ・4 つの評価の視点（賑わい創出、地域性、ウォーカブル（回遊性・周辺との関係性）、プレゼンテーション）の項目に沿って、4 人の審査員が発表に対する審査を行いました。
  - ※ 4 つの視点については、あらかじめ定め、参加者にお伝えしました。
- ④ 講評
  - ・審査員から、各班に対し講評を行いました。講評の概要は下記のとおりです。

### 1 班

行政職員でも知らない事柄まで調査され、細かな分析が行われている。現状分析や課題は、神戸市の考えと合致しており、素晴らしい。共同店舗の提案は、地元自ら動くことで持続性が担保できるため、今後の取組みの参考としたい。全国展開をする上でホームページの活用が提案されているが、もう少し時間があれば、アイデアがもっと出たのではないかと。共益費の負担軽減など、運営面まで提案をいただき素晴らしかった。

### 2 班

CG の制作など関心した。商業の賑わいを取り戻すために、「商」そのものではなく、「住」を入れて魅力づくりをするという点が良かった。シェアハウスの整備が、まちにどのように活力として還元されるのかが考えられている点、まちの顔がパチンコで良いのか？という指摘、明快なゾーニングが良かった。駅からの動線など広域的に考えられるとさらによかったが、総合的に可能性を感じる提案だった。

### 3 班

3 つの憩いの場が大胆に提案されている。また、温泉や土壌の問題など、地域性も読み取られている。特に、ウォーカブルを実現するために、鉄人 28 号を同じ目線で望める新たな



視点場を設定する点は、高く評価できる。多様なメンバー構成で、多角的な提案となっており、定量的な評価で案を絞り込む過程も説得力がある。駐輪場やシェアオフィスが地域課題の解決にどのように結びつくのか提案されるとなお良かった。

#### 4 班

地域が抱える課題が、地域資源を活用してどのように解決されるのか、その展開がわかりやすく、的確な提案だった。長田の「下町」「アート」「食」などの特徴がおさえられており、丸五市場についても取り上げられていた。このまま実現したら良いのではないかと思うぐらい、ストーリーがしっかり構成されており、発表資料もデザインされていた点が高く評価できる。

#### ⑤ 審査結果発表

- ・審査の結果、3 班が最優秀賞、2 班が優秀賞を受賞しました。

#### ⑥ 記念撮影、全行程終了

- ・最後に参加者全員で記念撮影を行い、全プログラムを終了しました。



参加していただいたみなさま、本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。また、本ワークショップの開催にあたり、多大なご協力をいただいた神戸市都市局のみなさまに御礼申し上げます。